

現場の斜角度で設計・施工

—「斜角門形カルバート」— NETIS-CB-050060

斜角門形カルバート工法研究会

はじめに

現在、橋の寿命・強度的不安に関して問題点が指摘される中で、斜角門形カルバートは、短スパン橋梁の安価な代替え工法として近年社会的にも注目を集めている。

斜角門形カルバート の特徴

河川・水路と交差する日本の小さな橋は、少なからず角度を持って設計されてきた。

斜角門形カルバートは、独自の製造技術（特許取得済）により、カルバートの壁部分を現地の斜角度に自由に合わせて設計・施工することができ、経済的にも従来の橋梁と比較して大幅な工費縮減になる。

斜角門形カルバートは、現場打ち基礎コンクリートの上に「かぶせる」だけなので、施工性の面でも従来工法に比べ優位性が高い。

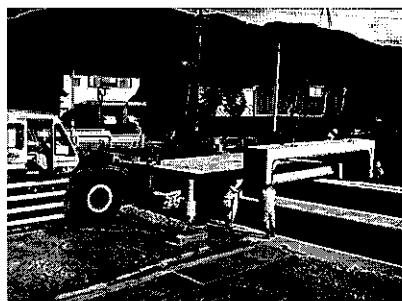


写真-1 施工状況

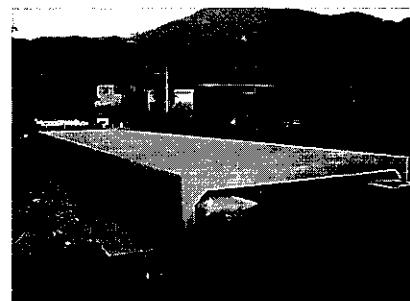


写真-2 製品設置完了

また、現況の河川や水路を維持したまま施工が可能であり、在来水生生物の保護、建設機械の作業時間の短縮も含めてCO₂の排出削減に寄与できる。

最近の動向

斜角門形カルバートは、国土交通省のNETISに登録済みで平成21年度は、中部地方整備局飯田国道事務所発注のバイパス工事に、内幅6m、内高1.2m、製品重量9トン/個の製品が延長33m(33個)採用された(写真-1~2)。その他、全国の地方自治体でスパ

ン10m程度までの橋梁の代替え工法として実績件数は150件を超えている。

今後の展開

当工法研究会は、全国19社の会員で構成され、会員社の技術力の充実、さらなる製品改良に力を入れている。今後は、組織の充実化を図るとともに、活発な情報発信を目的としたホームページ(<http://syakaku-mongata.com>)の更新にも力を入れていく方針である。